

国語科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日(〇)
5 校時 13:35～14:25
学校名 中学校
対 象 第3学年 33名
会 場 教室
授業者 〇〇 〇〇

1 単元名 視野を広げて
「作られた『物語』を超えて」(光村出版)

2 単元の目標

- ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること。〔知識及び技能〕(2)ア
- ・文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ
- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア	①「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価している。 C(1)ウ	①すすんで文章の構成や論理の展開の仕方について評価し、情報と情報との関係について深めた理解を生かして、文章にまとめようとしている。

4 指導観

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領(平成29年3月告示)、国語〔第3学年〕 2内容〔思考力、判断力、表現力等〕C 読むこと(1)

ウ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること。

を受けて設定した。

学習指導要領によれば、『文章の構成や論理の展開について評価するとは、文章の構成や論理の展開が分かりやすく適切なものであるか、読み手の共感を得るために有効であるかなどを根拠に基づいて判断し、その意味などについて考えることである。』とある。

また、『表現の仕方について評価するとは、様々な表現の仕方が、文章の内容や書き手の考えを正確に伝えたり印象付けたりする上でどのような効果を上げているかなどを根拠に基づいて判断し、その意味などを考えることである。』とある。

そこから、〔知識及び技能〕の(2)の「ア 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。」と関連させ、筆者の主張を捉えさせた上で論理の展開を評価して文章にまとめる力を身に付けさせたい。

(2) 生徒観

これまで説明的文章の学習では、序論・本論・結論の構成を捉えたり、三角ロジックを用いて筆者の主張と根拠のつながりに無理がないかを考えたりする活動を行ってきた。文章全体の関係性を意識し、論理的に読み取る力は身に付いてきている。一方で、自分の考えを文章にまとめることに苦手意識をもつ生徒は多い。このことから、説明的文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価し、自分の意見を文章にまとめる活動を行いたい。

(3) 教材観

本教材は、人間の作った「物語」によってゴリラが悲劇に見舞われた例を挙げ、人間の性質について筆者の意見が語られた論説文である。筆者の問題意識とゴリラの事例を通して、抽象と具体の関係性について理解を深め、筆者の主張に至るまでの論理の展開を吟味することができる。こうしたことから、文章の構成や論理の展開を評価して文章にまとめさせるのに適した題材だと言える。

5 年間指導計画における位置付け

第3学年は、「読むこと」に関連する事項として次のことを学ぶ。

時期	単元名・「教材名」	重点指導事項
5月	視野を広げて（本単元） 「作られた『物語』を超えて」	ウ 文章の構成や論理の展開、表現について評価すること。
10月	自らの考えを 「人工知能との未来」	イ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。
12月	価値を生み出す 「誰かの代わりに」	エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。

6 単元の指導計画と評価計画(全3時間)

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準(評価方法)
第1時	本文全体の内容を理解し、筆者の問題意識を捉える。	○本文を通読し、新出語句の意味を確認する。 ○筆者の問題意識を捉え、本論との関係性を考える。	イー①(ノート) ・序論で示された筆者の問題意識の詳しい説明として本論のゴリラの事例が展開されていることを理解している。
第2時	三角ロジックを用いて、筆者の論理の展開を捉える。	○筆者の主張に対してゴリラの事例を事実とした場合、意味付けはどのような内容になるか考える。	アー①(ワークシート) ・三角ロジックを用いて筆者の主張と事実から適切な意味付けを導き出している。
第3時(本時)	筆者の論理の展開を評価する。	○前時の三角ロジックと比較して、本文の内容にわかりにくい点がないか確認する。 ○筆者の論理の展開を評価して文章にまとめる。	ウー①(意見交換の様子) ・課題の解決に向けて積極的に自分の意見を伝えようとしている。 イー①(ワークシート) ・条件に従って筆者の論理の展開を評価している。

7 指導に当たって

- ・指導方法の工夫…論理の展開を評価するために、既習事項の三角ロジックを取り入れ、評価する観点を明確にしてから文章にまとめる力を身に付ける。＝「『指導と評価の計画』」の作成・改善」

8 本時(全3時間中の第3時)

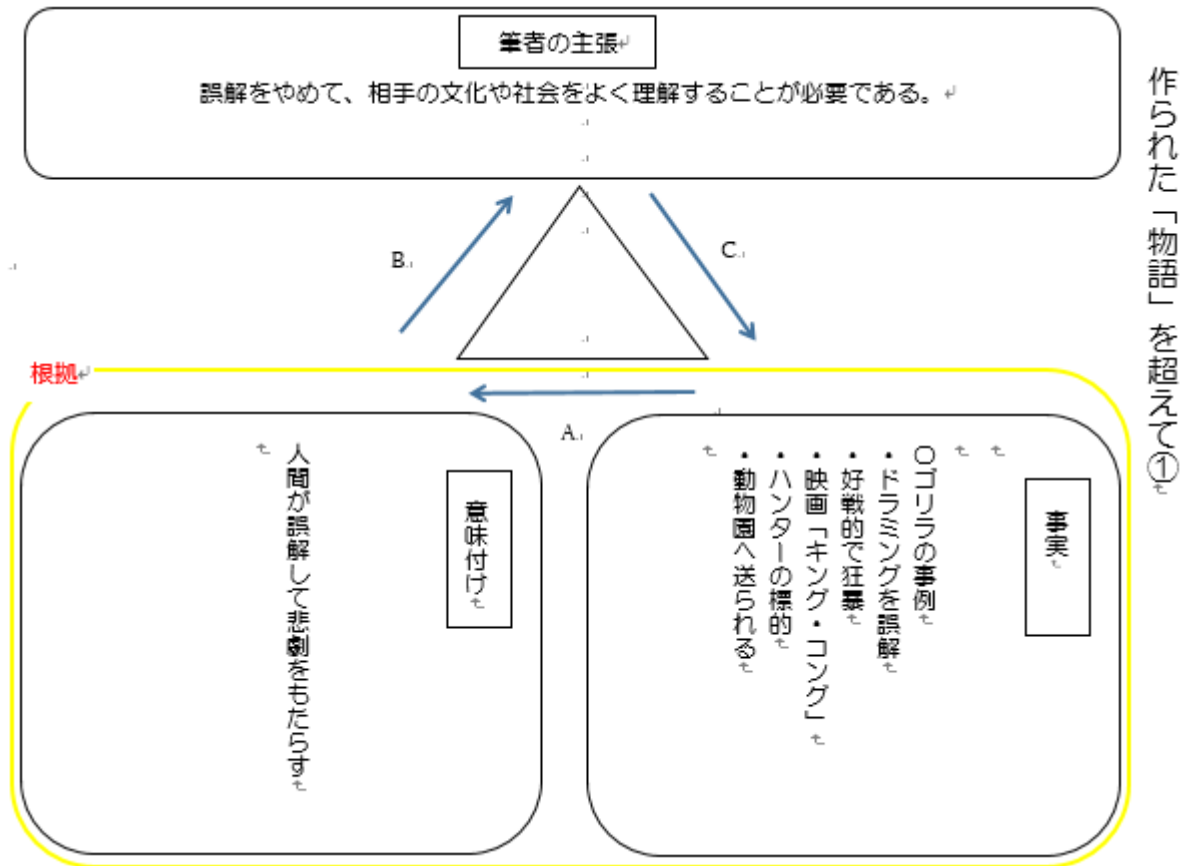
(1) 本時の目標

筆者の論理の展開を評価して文章にまとめることができる。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点 配慮事項	評価規準(評価方法)
導入 5分	○前時の内容を振り返る。 ○本時の目標を確認する。	・前時の内容を振り返らせる。 ・目標を板書し、本時の流れを説明する。	
展開 40分	○前時の三角ロジックと比較して、本文の内容にわかりにくい点がないか確認する。 ・ワークシートに自分の意見を記入する。 ・4人グループとなり、本文の内容のわかりにくい点について話し合う。 ○筆者の論理の展開を評価する。 ・評価をするときの条件を確認する。 ・筆者の論理の展開を評価して文章にまとめる。	・ゴリラの事例から人間の作った「物語」の罪と話を伝える能力の罪への展開に思い込みや飛躍がないか考えるよう指導する。 ・できるだけ多様な発想が出るようにして、メモを取らせる。 ・評価する文章をまとめるときに、以下の条件に従って書くよう指示する。 ①論の進め方についての自分の評価 ②なぜそう考えたかの説明 ③引用文 【予想される生徒の考え】 ・人間の作った「物語」は、必ずしもゴリラの悲劇や世界紛争の原因であるといえない。 ・具体的なデータや証拠が少なく、筆者の根拠には偏りが見られる。	イ-① (ワークシート) ・条件に従って筆者の論理の展開を評価している。 【B評価】 提示された条件をすべて満たして書いている。 【A評価】 B評価に加え引用が適切でわかりやすい説明になっている。
まとめ 5分	○本時を振り返り、論理の展開を評価してわかったことやできたことを捉える。	・意見と根拠の結び付きを考えながら評価できたか、ワークシートで振り返らせる。	

(3) 板書計画



(4) 授業観察の視点

- 生徒が自主的に考えて課題に取り組んでいたか。